

1. この歌の起源

これは一人の水夫から金品を盗んで捕まった *Maggie May* という名のストリートガールの事を唄ったリバプールのフォークソングです。スタン・ヒューギルは彼の著書の中で次のように述べています。“*Maggie May* が誰で、いつ何処に住んでいたかは分からないらしい。けれども、実在した女なのか架空の女なのかは問題ではない。彼女が嘗て自分たちも共にしたことのある船乗り相手の女であることは察しがつく。どうも彼女はしょっちゅう盗みを働いたようだ。そしてお巡りに捕まり、植民地に追放された。この歌は当時多くのリバプール船でキャプスタンの作業をする時に唄われた。”

2. 英語の歌詞と日本語訳

Come all you sailormen an' listen to my plea,
 When you've heard it you will pity me.
 For I was a goddamn fool in the port of London pool
 On the first day me barge came from sea.
 I was paid off at Green hithe from a voyage from north of Blyth,
 And four pounds ten a month it was my pay,
 And as I jingled with my tin I was very soon taken in
 By a pretty girl, they called her *Maggie May*.
 Well do I remember where I first met *Maggie May*
 Cruisn' up and down Woolwich place.
 She wore a crochet fine like a frigate on the line like a bargeman I gave chase.
 I caught her all a back she shifted her main tack,
 But *Maggie* she had busted her main stay,
 And next morning when I woke with me heart just sore an' broke.
 Cos *Maggie* had skedaddled with my pay.
 And that morning when I woke
 No shirt, no pants, no waistcoat could I find.
 I wrote for where they were. She replied:
 "My dear Sir, they are down in Ips-wich pawnshop number nine."
 To the pawnshop we did go but I could not find my clothes,
 So a bobby came and took the girl away,
 And the judge he guilty found her,
 For the robbin' of a homeward bounder,
 And he paid her passage back to Butter-man's Bay.

O *Mggie*, *Maggie May* they've taken you away toil upon that demon troubled shore,
 Cos you're robbed so many sailors
 An' you've done so many whalers
 But you'll never see the 'Riga' anymore.

注) Blyth: (ブライズ)、イングランド北部の港。Woolwich (ウリッジ)、Greater London 南東部の一地区。

Crochet: クロッシェ編み。Ipswich (イプスウィッチ)、イングランド Suffolk 州南東部の都市。

Greenhithe (グリーンヒズ)、Thames 河畔沿いの村。Skedaddle、あわてて逃げる。

さあ、みんなここに来て俺の話聞いてくれ。
この話を聞いたら、お前は何て気の毒な奴だと思うだろう。
何故かって、俺はリバプールの港で全くバカなことをした、
海から帰ってきた最初の日に。
ブライズの北からの航海を終えてグリーンヒズで給料を貰った。
4ポンド10ペンスだった。
そして俺が小銭をチャラチャラ鳴らしていると
間もなく、一人のべっぴんの女に騙された。
みんなはその女をマギー・メイと呼んだ。

そう、俺はマギー・メイに初めて逢った処をよーく覚えてる。
彼女はウリッジの街を客を拾うため行ったり来たりしていた。
上等なクロッシェ編みのコートを着て、航路上の護衛艦のように。
彼女は俺が船乗りだと判ったので、俺は追いかけた。

俺は彼女をつかまえた。彼女は態度を変えた。
しかし、彼女は大事な滞在を台無しにした。
翌日目が覚めると俺は文無しだった。
マギーの奴が俺の給料を持って逃げたのだ。
おまけにシャツもズボンもベストも見当たらなかった。
俺は手紙で何処へやったのか聞いた。彼女は答えた：
ねえ、お兄さん、衣類はイプスウィッチの質屋#9にあるわ。
早速、2人でその質屋へ行って見たが、俺の衣類はなかった。
やがてお巡りが来て彼女を連れていった。
判事は彼女に有罪を宣告した。我が家へ帰る船乗り達から金品を奪ったかどで、
そして彼女にバターマンズ湾への片道の船賃を払った。

(Chorus)

おオ、マギー、マギー・メイ、連中はお前を連れて行ってしまった。
あの悪魔の住む地で苦役に服するために、
それもお前が余りにも多くの船乗り達を食べ物にしたからさ、
お前は二度とリガに戻ることはないだろうよ。

参考文献: Shanties from the Seven Seas、collected by Stan Hugill

解説・日本語訳: 宮崎多加雄

帆船日本丸男声合唱団用資料

冊9-110